

実施日	
-----	--

患者番号	性別	身長	cm	
カナ氏名	生年月日	体重	kg	指示医
患者氏名	年齢	体表面積	m ²	

Rp) パニツムマブ(ベクティビックス) 6mg/kg day1
 レボホリナート(アイソボリン) 200 mg/m² day1
 フルオロウラシル(5-FU):bolus 400 mg/m² day1
 フルオロウラシル(5-FU):持続 2400 mg/m² day1~2 インフューザー使用 2.5mL/時間
 オキサリプラチン(エルプラット) 85 mg/m² day1

ファモチジンD錠10mg2錠内服

本管①

15分	パノセトロン点滴静注バッグ0.7 5mg 50mL	1	袋
	デカドロン注射液1.65mg 0.5mL	4	管

レジメンコメント1

レジメンコメント2

本管② 全量100mLに調製 インラインフィルター使用

60分

【mL】生理食塩液100mL	mL
パニツムマブ	mg
【mg】ベクティビックス点滴静注400mg:	
【mg】ベクティビックス点滴静注100mg:	

★パニツムマブ投与に伴う皮膚障害対策
 〈予防〉・・・初回投与時より開始
 ①ミノマイシンカプセル 200mg 2× (投与6週間で終了)
 ②ヘパリン類似物質(保湿剤:体全体に塗布)
 〈症状発現時〉
 ③ロコイド軟膏orクリーム(ステロイド剤/Medium:顔)
 ④アンテベート軟膏(ステロイド剤/Very Strong:体)
 ※以後、症状により継続・再開及び抗アレルギー剤等薬剤追加検討
 ※上記無効時又は外用ステロイド副作用発現時
 →皮膚科又は形成外科へコンサルト

本管③

5分

【50mL】生理食塩液50mL	1	瓶
-----------------	---	---

本管④

120分

大塚糖液5% 250mL	1	袋
レボホリナート	mg	
アイソボリン点滴静注用100mg:		
アイソボリン点滴静注用25mg:		

側管① レボホリナート開始時120分かけて

120分

大塚糖液5% 250mL	1	袋
オキサリプラチン	mg	
〈腫〉オキサリプラチン点滴静注液100mg「NK」:		
〈腫〉オキサリプラチン点滴静注液50mg「NK」:		

側管② レボホリナート終了時5分かけて

5分

【50mL】生理食塩液 50mL	1	瓶
フルオロウラシル	mg	
5-FU注1000mg:		
5-FU注250協和 250mg:		

本管⑤ 全量105mL(適宜増減)に調製

★パニツムマブ投与期間中、以下の初期症状(Infusion reaction)に注意すること (※症状発現時→重症度に応じて速やかに対処)
 ・意識消失又はショックを症状としたアナフィラキシー様症状
 ・呼吸困難・気管支痙攣
 ・蕁麻疹
 ・低血圧
 ・悪寒・発熱
 ・血管浮腫 等

46 時 間	【mL】生理食塩液 100mL	mL
	フルオロウラシル	mg
	5-FU注1000mg:	
	5-FU注250協和 250mg:	

ポンプの流速は2.5mL/時間に設定
(必要時ポートフラッシュ)

＜実施時の注意＞

漏出時(オキサリプラチン、フルオロウラシル):直ちに投与を中止し、薬剤を吸引、洗浄し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。オキサリプラチンは寒冷刺激により末梢神経障害が誘発されるため患部の冷却は避ける。

- オキサリプラチン
アルミニウムとの接触により分解するため調製時あるいは投与時にアルミニウムが用いられている機器(注射針等)は使用しないこと。
- フルオロウラシル
TS-1投与中もしくは投与中止後7日以内→投与不可
- パニツムマブ
インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を用いて投与すること。

＜用量規制因子＞

投与予定日に好中球数 $\geq 1500/mm^3$ 、血小板数 $\geq 75000/mm^3$ であること。

前サイクル投与後にGrade4の血液毒性もしくはGrade3の非血液毒性を認めた場合、Grade1以下に回復後、投与を再開する。Grade4の非血液毒性を認めた場合は中止する。

- オキサリプラチン
進行・再発: $85mg/m^2 \rightarrow 65mg/m^2 \rightarrow 50mg/m^2$
術後補助: $85mg/m^2 \rightarrow 75mg/m^2 \rightarrow 55mg/m^2$
- フルオロウラシル
急速: $400mg/m^2 \rightarrow 300mg/m^2 \rightarrow 200mg/m^2$
持続: $2400mg/m^2 \rightarrow 2000mg/m^2 \rightarrow 1600mg/m^2$

- パニツムマブ
Grade3以上の皮膚障害発現時投与延期する。投与延期後6週間以内にGrade2以下に回復した場合は6mg/kg又は4.8mg/kg投与。6週間以内にGrade2以下に回復しなかった場合は、本剤の投与を中止する。

＜注意すべき副作用＞

- 過敏症 ●食欲不振、吐き気 ●手足のしびれ ●口内炎 ●色素沈着 ●脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など)
- 皮膚症状(皮疹、乾燥、爪囲炎など) ●白血球減少 ●赤血球減少(貧血)
- 血小板減少 ●肝機能低下